

令和 6 年 4 月 21 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2021～2023

課題番号：21H00790

研究課題名(和文)25年追跡調査による育児困難感別効果的な虐待予防および悪化防止支援の検証と実装

研究課題名(英文)Verification and implementation of effective abuse prevention support according to childcare difficulties by 25-year longitudinal study

研究代表者

安梅 勅江 (Anme, Tokie)

筑波大学・医学医療系・教授

研究者番号：20201907

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,240,000円

研究成果の概要(和文)：経年的な育児困難の特徴の推移が、青年期まで追跡した子どもの発達、社会適応、健康状態、問題行動の発現にどのように影響するのかを踏まえ、科学的な根拠に基づく効果的な虐待予防および虐待悪化防止の機序を明らかにし、虐待予防に向け早期に支援するモデル、実施のための活用方法を提案した。また育児困難感の特性別に発達の軌跡と支援方法の妥当性に関する学術的な知見を得るとともに、乳幼児期の支援機関における子どもと保護者への支援の充実を意図した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、25年間にわたる保護者と子どもの追跡調査に基づき、育児困難の特性別に科学的な根拠に基づく効果的な虐待予防支援を検証し、その成果をもとに実装モデルの提案を行った点で学術的意義が高い。もとより子育て支援は、社会・文化的な影響のきわめて大きい領域である。本研究は、海外の成果を参照しつつも、我々が日本で標準化した複数の指標を用い、保護者と専門職のニーズに関するフォーカス・グループインタビューの蓄積により、日本の実情に適合した実装モデルを開発する点、日本において初の長期におよぶ大規模追跡調査に基づく虐待予防支援の検証を行う点で、高い社会的意義を有するものである。

研究成果の概要(英文)：Based on how changes in the characteristics of parenting difficulties over time affect children's development, social adjustment, health status, and development of problem behaviors followed through adolescence, we identified mechanisms for effective abuse prevention and prevention of worsening abuse based on scientific evidence, models for early support for abuse prevention, and utilization for implementation. We also proposed a model for early support for abuse prevention and a method for its implementation.

In addition, we obtained academic findings on the developmental trajectories and appropriateness of support methods for each characteristic of childrearing difficulties, and intended to enhance support for children and their parents at support organizations during infancy.

研究分野：保健福祉学

キーワード：虐待予防

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 児童虐待相談対応件数は2022年度21万9,170件におよび、増加の一途をたどっている。効果的な虐待予防および虐待悪化防止への早期支援は、保育園、幼稚園、認定こども園など乳幼児期の子育て支援機関において強く求められている。

(2) しかし日本においては、これまでに全国の園児を対象とした経年的な大規模データを用いて、青年期まで追跡した科学的な根拠に基づき育児困難感の特性別に効果的な虐待予防および悪化防止支援を検証し、保育実践に実装した研究はまったく存在しない。

(3) 欧米先進国においては、英国の70年追跡コホート研究をはじめ、国レベルで出生から15年以上におよぶ大規模コホートプロジェクトを立ち上げ、虐待予防支援の根拠を政策に活かしている。

(4) 応募者は過去20年以上にわたり、子育て支援や家庭環境が、子どもの発達や社会適応、健康状態に及ぼす影響を追跡研究してきた。その結果、質の高い子育て支援、家庭における適切な子どもへのかかわり、保護者の育児への自信、保護者へのサポートが、子どもの経年的な発達状態、健康状態などに良好に影響していることを明らかにした。本研究における子どもの発達、適応状態、健康状態への影響の経年的な評価法や統計的な分析法に関しては欧米先進国と同様の方法を用い、国際的に比較可能なデザインを採用している。

(5) さらにこれら科学的な根拠に基づき、「家庭環境の評価指標」「気になる子どものスクリーニング指標」「園児の発達評価指標」「保育の質の評価指標」を開発し、子どもの健やかな発達と保育の質の関連性を検討し、証拠に基づく評価基準を作成し、活用のための研修会を開催してきた。

2. 研究の目的

本研究は、25年間にわたる保護者と子どもの青年期におよぶ追跡調査に基づき、育児困難の特性別に科学的な根拠に基づく効果的な虐待予防支援を検証し、その成果をもとに実装モデルの提案を目的とする。

3. 研究の方法

支援プログラム効果検証のための在園児3,000名に対する保護者への質問紙調査、専門職への質的調査、子どもへの観察調査を実施した。

大規模コホートデータを用い、子どものウェルビーイングを目的変数に、不適切な養育環境など家庭環境要因、発達障害など子どもの特徴要因、保護者のストレスなど保護者特徴要因、社会サポート要因などを説明変数に、複合的な関連について多変量軌跡分析を用いて検証した。

それらの成果に基づき、科学的な根拠に基づき育児困難の特性別に効果的な虐待予防および悪化防止支援モデルの開発を行った。

4. 研究成果

経年的な育児困難の特徴の推移が、青年期まで追跡した子どもの発達、社会適応、健康状態、問題行動の発現にどのように影響するのかを踏まえ、科学的な根拠に基づく効果的な虐待予防および虐待悪化防止の機序を明らかにし、虐待予防に向け早期に支援するモデル、実施のための活用方法を提案した。

また育児困難感の特性別に発達の軌跡と支援方法の妥当性に関する学術的な知見を得るとともに、乳幼児期の支援機関における子どもと保護者への支援の充実を目的とした。

具体的には、下記のとおりである。

(1) 保護者と子育て支援専門職の「効果的な虐待予防および悪化防止支援」に関する実態とニーズ把握

効果的な虐待予防および悪化防止支援の実態とニーズを抽出するため、全国の保護者および子育て支援専門職に対するフォーカス・グループインタビューを実施した。子どもと保護者に対する対応の仕方、必要な保育環境、サポートの現状などを討論の柱として、具体的な内容を詳細に、できるだけ数多く収集した。子育て支援に長年取り組んできた実践専門職の豊富な体験や保護者の生の声を、フォーカス・グループインタビュー法の分析技術を活用しながら整理した。

(2) 子どもの育ちへの関連要因に関するデータ分析

調査内容は、身体的精神的ウェルビーイング状態、家庭環境、社会サポート状況、健康状態、社会適応、家族と子どもの属性などである。養育環境、サポート環境、子どもの経年的な発達状態、健康状態、社会適応、問題行動の推移を勘案しながら、乳幼児期の育児困難感の特性と支援状況、および関連要因を多変量軌跡分析により複合的な影響度の強さを明らかにした。

(3) 「効果的な虐待予防および悪化防止支援モデル」の試案開発

1) 海外コホート研究の根拠に基づく虐待予防および悪化防止支援の解析過程、内容、評価に関する

る系統的レビュー、2) 大規模コホートデータの分析結果、3) 保護者と子育て支援専門職のフォーカス・グループインタビューにより得られた情報、4) 応募者らが開発済みの「養育環境評価指標」を活用し、統計的妥当性及び臨床的重要性を加味しながら、有効な項目を抽出して体系化し、「効果的な虐待予防および悪化防止支援モデル」試案を作成した。

(4) 「効果的な虐待予防および悪化防止支援モデル」評価

保護者に対する質問紙調査(育児困難感、保護者のストレス、家庭環境と支援ニーズに関する実態把握)、医療・福祉・教育専門職による子どもへの面接・観察調査(子どもの心身の健康と課題に関する専門的な評価)を実施した。

専門職による子どもの発達状態、健康状態、社会適応、問題行動の評価、保護者に対する質問紙調査、専門調査員による家庭環境評価、面接調査、環境評価を行い、評価の妥当性を検証しつつ育児困難感の特性別パネルコホートを用いた支援モデルの評価を行った。

(5) 「効果的な虐待予防および悪化防止支援モデル」の「保育の質の評価指標」への反映

我々がすでに開発している「保育の質の評価指標」の枠組みである「子ども」「家族」「保育環境」「連携」の4領域について、家庭、子育て支援機関、地域との連携により「効果的な虐待予防および悪化防止支援モデル」を反映した形で総合的に展開できるよう検討を加えた。

(6) 育児困難感の特性別の軌跡と影響要因、支援の効果に関する科学的な根拠の提示

実践の場において、「効果的な虐待予防および悪化防止支援モデル」を十分に活用するために、具体的な実践につながるさまざまな形の活用方法を提示した。

育児困難感の特性別に、子ども、保護者、専門職、子どもの友人、近隣地域などに向けて、実際に支援を活用する際の目的、方法、進め方のコツ、把握する必要があるポイント、予測される成果などを詳細に解説したホームページを作成し広く利用可能とした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 8件/うち国際共著 8件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 Zhu Zhu, Jiao Dandan, Li Xiang, Zhu Yantong, Kim Cunyoen, Ajmal Ammara, Matsumoto Munenori, Tanaka Emiko, Tomisaki Etsuko, Watanabe Taeko, Sawada Yuko, Anme Tokie	4. 巻 -
2. 論文標題 Measurement invariance and country difference in children's social skills development: Evidence from Japanese and Chinese samples	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Current Psychology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s12144-022-03171-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Zhu Zhu, Kim Cunyoen, Jiao Dandan, Li Xiang, Ajmal Ammara, Matsumoto Munenori, Sawada Yuko, Kasai Toshiyuki, Watanabe Taeko, Tomisaki Etsuko, Tanaka Emiko, Ito Sumio, Okumura Rika, Anme Tokie	4. 巻 23
2. 論文標題 Patterns of Movement Performance among Japanese Children and Effects of Parenting Practices	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Sultan Qaboos University Medical Journal	6. 最初と最後の頁 22 ~ 31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18295/squmj.1.2022.008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Zhu Yantong, Jiao Dandan, Tanaka Emiko, Tomisaki Etsuko, Watanabe Taeko, Sawada Yuko, Li Xiang, Zhu Zhu, Ajmal Ammara, Anme Tokie	4. 巻 -
2. 論文標題 Exploring Patterns of Self-control and the Relationship with Home-rearing Environment Among Preschoolers	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Early Childhood Education Journal	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s10643-022-01380-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Zhu Yantong, Zhu Zhu, Jiao Dandan, Li Xiang, Tanaka Emiko, Tomisaki Etsuko, Watanabe Taeko, Sawada Yuko, Matsumoto Munenori, Cui Mingyu, Liu Yang, Anme Tokie	4. 巻 64
2. 論文標題 Bidirectional relations between self-control and cooperation among Japanese preschoolers: A random-intercept cross-lagged panel analysis	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Early Childhood Research Quarterly	6. 最初と最後の頁 139 ~ 147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.ecresq.2023.02.010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Yantong Zhu, Xiang Li, Dandan Jiao, Emiko Tanaka, Etsuko Tomisaki, Taeko Watanabe, Yuko Sawada, Zhu Zhu, Ammara Ajmal, Munenori Matsumoto and Tokie Anme	4. 巻 8(10)
2. 論文標題 Development of Social Skills in Kindergarten: A Latent Class Growth Modeling Approach	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Children	6. 最初と最後の頁 870
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/children8100870	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Zhu Zhu, Emiko Tanaka, Etsuko Tomisaki, Taeko Watanabe, Yuko Sawada, Xiang Li, Dandan Jiao, Ammara Ajmal, Munenori Matsumoto, Yantong Zhu, Tokie Anme	4. 巻 43(1)
2. 論文標題 Do it yourself: The role of early self-care ability in social skills in Japanese preschool settings	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 School Psychology International	6. 最初と最後の頁 71-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/01430343211063211	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Xiang Li, Dandan Jiao, Munenori Matsumoto, Yantong Zhu, Jinrui Zhang, Zhu Zhu, Yang Liu, Mingyu Cui, Yanlin Wang, Meiling Qian, Ammara Ajmal, Alpona Afsari Banu, Yolanda Gra, Emiko Tanaka, Taeko Watanabe, Yuko Sawada, Etsuko Tomisaki & Tokie Anme	4. 巻 -
2. 論文標題 Home environment and social skills of Japanese preschool children pre- and post-COVID-19	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Early Child Development and Care	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/03004430.2021.2021896	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Xiang Li, Yan-Tong Zhu, Dan-Dan Jiao, Yuko Sawada, Emiko Tanaka, Taeko Watanabe, Etsuko Tomisaki, Zhu Zhu, Ammara Ajmal, Munenori Matsumoto, Jin-Rui Zhang, Alpona Afsari Banu, Yang Liu, Ming-Yu Cui, Yolanda Graca, Yan-Lin Wang, Mei-Ling Qian and Tokie Anme	4. 巻 9(2)
2. 論文標題 Subtyping of Internalizing and Externalizing Behaviors in Japanese Community-Based Children: A Latent Class Analysis and Association with Family Activities	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Children	6. 最初と最後の頁 210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/children9020210	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

保育パワーアップ研究会
<http://childnet.me/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------